

## 平成21年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会の開催

持続型農業生産技術分野長 教授 星野 次汪

岩手大学が当番校となり、40年ぶりに全国大学附属農場協議会秋季全国協議会が、平成21年9月10日に51大学、135名の参加を得て、ホテルメトロポリタン盛岡を会場に開かれました。文科省高等教育局専門教育課担当官の挨拶の中で、質の高い教育を提供していくためには他大学と連携強化し、各大学の有する人的・物的資源の有効活用により多様かつ高度な教育を展開していく教育関係共同利用拠点制度について紹介され、活発に意見交換が行われました。その後、「実習教育の質保証と農場の管理・運営に関わる経費、人員」他が協議・報告されました。その後、岩手大学若尾紀夫名誉教授から「盛岡高等農林学校創立から受け継がれてきた知的財産」について特別講演があり、当大学農学部の過去から現在に至る連綿とした地域農業への貢献が活き活きと語られました。「教育研究集会シンポジウム」では、当大学の佐川了准教授による「岩手大学農学部における食農教育の実践」、岩手大学農学部3年荒川美美・及川ちあき・長坂佳奈子・山崎美幸による「農場実習から学んだもの」、岩手大学農学部村

上芳子特命教授による「岩手大学による地域関係者と連携したアグリプロ養成プログラム開発による地域貢献」が紹介されました。

翌日の現地視察は、岩手大学農学部附属滝沢農場と花巻産直施設だすこ、花巻市八重畑の転作団地におけるヒエ栽培などを視察し、参加者に雑穀が地域振興に活かされていることを実感してもらうことができました。



滝沢農場での見学



花巻市八重畑のヒエ栽培

## 全国大学附属農場協議会の教育研究集会における学生の発表要旨

## 農場実習から学んだもの～作物が私たちに教えてくれたこと～

岩手大学農学部農学生命課程3年 荒川 美美・及川 ちあき・長坂 佳奈子・山崎 美幸

私たちの主な実習内容は、基本実習では水稲・果樹・畑作・機械・加工を、畑プロジェクトでは班毎に好きな作目を選択して栽培した。

水稲では田植えて腰を痛めたり、稲刈りでは穂をまとめる作業で苦労したりと機械のありがたみをととても実感した。また、初めて味噌作りをしたり、大福を作ったり、加工作業はととても勉強になった。

畑プロジェクトでは、「いもっこり班」は、サツマイモとヤーコン、トマトを栽培した。栽培は、比較的イモ類の方が簡単で、トマトはアブラムシ対策や腋芽摘みがあり大変だった。イモ類もトマトもおいしい実がなり美味しかった。大収穫だったが、食べきれず実を腐らせてしまうということもあり、作物管理の難しさを学んだ。

「うすむらさき班」は、主に根菜類、そして後作としてホウレン

ソウ、アスパラ菜、白菜、聖護院ダイコンを栽培した。ただ栽培するだけでは面白くないので、いくつか栽培方法の実験を行ってみた。例を挙げると「秋蒔きダイコンを春に蒔くとどうなるのか」という実験である。結果はトウが立ち、うすむらさき色の花が咲き、根の部分は見た目は普通だが筋張っていた。せっかく収穫したのでヤーコン料理の試食会を行った。味も含めヤーコンがどういうものなのかみんなで見ることが出来たと思う。

私たちはこの実習を通して、普段の生活では感じることの出来ない土のにおい、空の広さを感じる事ができ、農学部に来た本当の意味がようやく分かった気がする。このような経験はもう二度とないかも知れないが、素晴らしい1年間を送らせていただき、サポートしてくださった先生や職員の方々に本当に感謝している。

教育  
トピックス

## 「森の駅市場」開催

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

平成21年12月4日(金)に岩手大学農学部にあるポランハウス(旧ガラス温室)において、「森の駅市場」を開催し、滝沢農場の生産物および農学生命課程2年生が農場実習で栽培した野菜の販売、ならびに研究成果のパネル展示を行った。農場実習では、学生が自ら作物を選び、栽培法を調べ、試食まで行うという取り組みを行っている。そして、生産物を販売する難しさを体験してもらうことも食農教育において重要であると考え、今回の販売会には農場職員に加え、実習の一環として農場実習履修学生もスタッフとして参加した。販売品目は、米、岩大味噌、ブルーベリージャム、ブルーベリージュース、リンゴ、黒千石豆、ヒエ等のほかに、学生が栽培したサツマイモと白菜である。ポランハウスでの販売会は初めての試みであり、どのくらい来客者があるのか不安ではあったが、多くの学内の職員や大学近隣の市民の方々に来ていただき、ブルーベリージャムなどすぐに完売してしまう品もあり、盛況であった。学生にとっては自分で栽培した野菜を自分で販売し、

消費者の生の声を聞くことができる貴重な機会となった。



## 学生の声

農学生命課程 2年 内山 翔太

立場が変わると見えてくる物も変わると言いますが、「森の駅市場」での販売を通して体験したことは、まさに「生産者」として見えてくる物でした。普段は消費者側の私達ですが、相手に自分が育てたものを渡すまでに至る思い。感じたことは様々でしょうが、素直に嬉しいと思える、とても貴重な体験をさせていただけたと思います。

エクステンション  
トピックス

## 農業技術支援塾の開設

持続型農業生産技術分野 技術専門職員 中西 啓

岩手大学農学部では、東北地方の農業教育の拠点として、農業の担い手を養成する「いわてアグリフロンティアスクール」を開設してきました。同講座の受講者には、営農者のほか、就農希望者等が含まれていることから、圃場における作物栽培などの技術支援が求められてきました。

そこで、新たな農業技術支援事業として滝沢農場に「農業技術支援塾」を開設し、「担い手実践コース」および「チャレンジコース」の2講座を設定し実施しました。「担い手実践コース」は、新規就農者および定年帰農者等を対象に、実践を通じた技術指導・支援を実施し、5名が受講しました。また、「チャレンジコース」では、非農業従事者を対象とした農業体験を実施し、17名が受講しました。両講座は、平成21年4月24日～12月11日を実施期間として教員、技術職員が技術指導に当たり、外部の専門家を講師とした特別講演も実施しました。同講座は本年が最初の開催となりましたが、今回の実績を踏まえより充実した技術支援に努めていきたいと考えています。



ナスの栽培管理

## フィールドセミナーの開催

循環型森林管理技術分野 技術職員 麻生 臣太郎

滝沢演習林では、森林総合研究所OBや本演習林の技術職員OBの方々の協力を得てフィールドセミナーを開催している。参加者はリピーターが多く、遠方から来られる方もおり、毎回好評を頂いている。

11月15日に行われたフィールドセミナーでは「ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森」と題して、講師(元森林総研東北支所長・浅沼氏夫妻)の案内で10林班内を散策し、林道沿いにクズの木の冬芽やガマズミの赤い実など秋から冬にかけての植物を観察した。見つけた植物でビンゴゲームをしながらの散策は宝探しのように、親子で夢中になっている姿は実に楽しそうであった。当日は天候が雨模様であったにもかかわらず、参加者は熱心に講師の説明に耳を傾けていた。子供たちも元気いっぱいヤマブキで鉄砲を作ったり、おみやげ用の袋いっぱいどんぐりや木の葉を集めていたり、終始楽しんだ様子であった。



研究  
トピックス

## 星野次汪教授「第59回河北文化賞」受賞

持続型農業生産技術分野 准教授 佐川 了

2010年1月16日、持続型農業生産技術分野の星野次汪教授は「第59回河北文化賞」を受賞されました。

河北文化賞は(財)河北文化事業団主催により、東北地方の学術、文化、芸術、産業、社会活動の各分野に顕著な功績のあった個人、団体に対して贈られる賞であり、歴史と伝統のある権威ある賞です。今回の受賞は「もち性ヒエの開発とその利用による地域振興」の業績に対して贈られたものです。もち性ヒエ「長十郎もち」は低アミロース系統「ノゲヒエ」にγ線照射した突然変異体であり、世界初の「もちヒエ品種」として平成19年1月に品種登録されたものです。ヒエは耐寒性に優れ、岩手県では古くから救荒作物として栽培されてきた。しかし、昭和30年代以降その栽培は急激に減少した。近年、食の

多様化が進み雑穀に対するニーズが高まり、岩手県ではヒエなどの雑穀生産を振興している。雑穀の中でヒエはもち性品種がなかったためキビ、アワに比べて食味に劣るとされてきた。ヒエの需要拡大のためにはもち性品種が必要との考えから、「長十郎もち」を育成されたのでした。先生は品種開発のみならず、その利用について尽力されており、もち米ともちヒエによる醸造酒「ミレッシュゴールド」の製品化、更に味噌を始めとして様々な食品の開発を進めております。今回の受賞は星野先生の持論であります「地域農業、農家のための研究」に対する最も相応しい賞でありましょう。皆様とともにお祝いしたいと思います。

## 「共同的な林野管理の展開と持続への条件に関する研究」—学位論文のポイント—

循環型森林管理技術分野 技術専門員 佐々木 一也

平成21年9月に学位(博士)を取得した。学位取得を目指した動機を強いて記せば、大学職員に身を転じた自分ができることとして、これまでにお世話になったすべての方々へ、恩返しのような気持ちを何らかの形にして伝えたい、そんな思いのような気がする。以下に論文のポイントを記して報告とする。

共同的な林野管理が「森林を適正に整備及び保全」していく上で有効か否かというテーマを設定し、4地域の事例を対象とする検証等を通じて、以下の結果を得た。

まず、先行研究の分析を通じて明らかとなった諸点を整理・指摘し、その上で4つの地域事例の整理・分析から、各々次の点を明らかにした。(1)岩手県陸前高田市矢作町では、市有林に移管された旧財産区有林において、地元の市と住民の連携のもと、以前と同水準の森林整備が維持され、外部との交流に新たな活路を見出そうとしている。(2)同一関市大東

町では、市町村合併を機に地域資源管理の体制整備を図る動きがみられ、地域住民が森林の公益的機能発揮に高い関心を寄せている。(3)同川井村では、国有林を含む広大な放牧利用によって主要産業である肉用牛生産が成り立ってきた。今後も、放牧林野の維持管理と林業・畜産業振興が大きな課題であり、市町村合併を契機とする新たな施策展開への期待が大きい。(4)愛媛県旧久万町では、町(行政)と地元住民との相互理解・相互協力によって設立させた第3セクターが地域の林野(森林資源)の管理・保全に貢献し、林野管理の新たな一つの「共同」のかたちが現れてきている。

以上から、地域によって条件に差はあっても「所有」重視から「利用」重視への対応によって、共同的な林野管理が「地域の森林を適正に整備・保全」していく上で有効な対応形態となりうることを示した。



## 山神祭 ミニ・レポート

循環型森林管理技術分野 技術専門員 佐々木 一也

山(森林)で仕事をする人々は、毎年12月12日—地方によっては毎月12日、いまでもところによっては年に複数回の12日—に“山の神”を祀る。一般的には、日々関わる山の守護と、山で仕事をする者の安全を祈願する祭である。演習林を業務フィールドとする我々も、同じように演習林の山の神を崇めてきた。

平成14年度に寒冷FSCが発足して以降、隔年で寒冷FSCが主催して山神祭を行っている。平成21年度は御明神演習林を会場として、学長以下幹部教職員を中心に来場いただき、盛大に山神祭を行った(平成21年12月9日)。当日は雪が積もり足下が悪い中、演習林奥部に祀る祠まで移動し、身が清まるような寒気の中で全員で掌を合わせ、山の守護と業務の安全を祈った。御神酒をいただくささやかな席もことのほか和み、日頃どちらかという難しい顔をしている(?)参列者にも、神前で穏やかな雰囲気が溢れていた。—昔から、山の神は女神と言い伝えられている。

## 地域への貢献の展開(平成21年度)

### 職業的専門家対象

農業技術支援塾「担い手実践コース」	H21年	4月24日(金)～12月11日(金)
ウシの生体内卵子回収法、体外受精・培養法の研修	H21年	5月11日(月)～31日(日)
第6回森林環境教育パワーアップスクール—森林生物多様性コアプログラム—	H21年	5月18日(月)～22日(金)
第5回フォレストテクニカルエクステンション—岩大型作業路普及プログラム—	H21年	7月7日(火)
第6回フォレストテクニカルエクステンション—岩大型作業路普及プログラム—	H21年	8月31日(月)～9月1日(火)

### 一般市民・児童生徒対象

農業技術支援塾「チャレンジコース(1)」	H21年	4月24日(金)	イーハトーブ森と家づくりフォーラム
農業技術支援塾「チャレンジコース(2)」	H21年	5月1日(金)	「地産地消住宅見学ツアー」
農業技術支援塾「チャレンジコース(3)」	H21年	5月8日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(14)」
イーハトーブ森と家づくりフォーラム			農業技術支援塾「チャレンジコース(15)」
「植林体験ツアー」	H21年	5月9日(土)	農業技術支援塾「チャレンジコース(16)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(4)」	H21年	5月15日(金)	第4回 哲学者 内山節氏を迎えての
農業技術支援塾「チャレンジコース(5)」	H21年	5月22日(金)	「哲学の森」
農業技術支援塾「チャレンジコース(6)」	H21年	5月29日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(17)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(7)」	H21年	6月5日(金)	森林環境フォーラムinいわて 一関
第82回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(5)」	H21年	6月7日(日)	「里山の人、自然、未来を考える おらほのSATOYAMA」
第83回フィールドセミナー			農業技術支援塾「チャレンジコース(18)」
「総合的学習時間における森林学習23」	H21年	6月8日(月)	農業技術支援塾「チャレンジコース(19)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(8)」	H21年	6月12日(金)	第88回フィールドセミナー「植物観察シリーズ(7)」
第84回フィールドセミナー			農業技術支援塾「チャレンジコース(20)」
「総合的学習時間における森林学習24」	H21年	6月12日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(21)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(9)」	H21年	6月19日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(22)」
第85回フィールドセミナー			森林ボランティア
「総合的学習時間における森林学習25」	H21年	6月22日(月)	「やまづくりくらぶ」研修受け入れ
農業技術支援塾「チャレンジコース(10)」	H21年	6月26日(金)	第2回親子で楽しむ牧場ふれあい体験
農業技術支援塾「チャレンジコース(11)」	H21年	7月3日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(23)」
第86回フィールドセミナー	H21年	7月6日(月)～	第89回フィールドセミナー「親子シリーズ(7)」
「総合的学習時間における森林学習26」		7月7日(火)	農業技術支援塾「チャレンジコース(24)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(12)」	H21年	7月17日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(25)」
農業技術支援塾「チャレンジコース(13)」	H21年	7月24日(金)	農業技術支援塾「チャレンジコース(26)」
第87回フィールドセミナー			農業技術支援塾「チャレンジコース(27)」
「植物観察シリーズ(6)」	H21年	8月2日(日)	第90回フィールドセミナー「親子シリーズ(8)」

### センター開放的事業

森の駅市場	H21年	12月4日(金)
-------	------	----------

### 岩手大学農学部における卒業論文・修士論文テーマ公募に関するお知らせ

これまで岩手大学農学部では岩手大学中期計画に基づき、地域社会のニーズの吸い上げと研究結果の地域社会との共有化を目的とし、本紙において卒業論文・修士論文のテーマを公募してきました。一方、岩手大学地域連携推進センターでは、平成18年度より、学生の積極的な地域社会への参画を促すために、地域社会の抱える様々な問題を、学生の研究テーマとして募集しており、毎年10課題程度が採択され実施されております。そこで、来年度より学生の研究テーマ募集の窓口を統合し、地域連携推進センターで受け付けることとなりましたのでお知らせいたします。つきましては、農学部における卒業論文・修士論文の研究テーマとして取り上げてもらいたい事項のご希望がございましたら、下記までお問い合わせください。

【応募先】 〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学地域連携推進センター リエゾン部門

Tel : 019-621-6491 FAX : 019-621-6892 E-mail : ccrd-ad@iwate-u.ac.jp

【用紙ダウンロード】 <http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/liaison/regionalproblem.doc>

## 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/>

発行責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長 佐野 宏明  
編集責任者／寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 山本 信次